

### 第3回豊島区コミュニティ・スクール事業検討委員会 会議録

附属機関又は 会議体の名称		豊島区コミュニティ・スクール事業検討委員会
事務局（担当課）		教育部庶務課
開催日時		令和3年2月22日（月） 午後5時15分～午後6時15分
開催場所		オンライン会議
議 題		(1) 第2回 検討委員会 議事録について (2) 事前アンケート結果について (3) 「豊島区の地域にあったCS」と「CS導入により期待される効果」について (4) 今後のスケジュールについて (5) 意見交換
公開の 可否	会 議	<input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由 豊島区審議会等の会議の公開に関する要綱第4条第1項第3号 各委員の所感・感想・意見等を忌憚なく発言して頂くため
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委 員	柴田 彩千子（委員長）、山本 聖志、野村 友彦、小林 豊茂、 原 香織、清田 明、松浦 和代、青木 正典、山本 道子、 岡 将太、高橋 京子
	そ の 他	教育施策推進担当課長、指導課長
	事 務 局	教育部庶務課教育施策推進グループ

# 審 議 経 過

No. 1

教育施策推進 担当課長	議第（１）～（４）について説明
委員長	資料について、確認事項や質問はあるか。
A 委員	用語について２つ質問がある。 １つが社会総がかりという言葉は普段あまり使わない言葉なので、ここをもう一度説明してほしい。 法定 CS 化という言葉、先程も説明があったが馴染みのない言葉なので、２つの用語について詳しく教えてほしい。
教育施策推進 担当課長	社会総がかりという言葉は、今後もんでいきたいと思っている。 学校・地域・保護者、今 SDGs という考え方もあるので、みんなで学校に携わっていくというところを表現したく記載している。そういったところで社会総がかりという言葉を使った。 法定 CS 化については、先程も申し上げたとおり、今のモデル事業は要綱で実施している。それを教育委員会規則で学校運営協議会の機能等をしっかり定めてやっていく。そうなってくると人事公募等も東京都の制度に則って実施できるという形。
A 委員	ありがとうございました。 意見については後程述べます。
委員長	他に確認事項や質問はあるか。 無いようなので、議論に移る。資料 2「論点整理」の中で 5 つの視点が示されたので、今日は特に 1、2 について深く掘り下げていく。なお、1 は豊島区にあった CS とはどういった学校なのか。2 は、CS 導入により期待される効果についてというところ。意見がある方は挙手を。
A 委員	やはり社会総がかりでというところに目が留まってしまう。他の項目は具体的で、例えば既存の仕組みを生かしたとか、持続可能なとか、今日的なキーワードもちりばめられていて理解しやすい。 社会総がかりで子どもたちを育てる持続可能な体制づくりというのが、なんとなく茫洋としていてつかみづらいつ感じる。 また、それを説明した資料 4 に「学校・家庭・地域等の交流を活性化し、それぞれの役割を果たし、社会総がかりで子どもたちを育てる体制の整備」とあ

	<p>るが、これを読んでも具体像が分かりづらいというのが正直なところ。学校にとってあまり範囲が広がってしまうと取り掛かりがしづらい、イメージがしづらい面がある。</p> <p>ここのところの用語は、先程検討していきたいとお話があったが、慎重にしないと最初から躓いてしまう、学校にとって負担ばかりが増すという間違ったイメージを抱かれないようにする工夫が必要。</p>
委員長	事務局はどうか。
教育施策推進 担当課長	学校・家庭・地域等と記載しているが、そういった所を具体的に記載してイメージが湧くような形に記載を変えていく。
委員長	<p>社会総がかりという、学校・家庭・地域、地域の中に町会・町内会以外にも各種の NPO や企業、社会教育施設と呼ばれる博物館や図書館などの色々な施設や組織があるが、そういったものを具体的にイメージしやすくするというのと、学校にとってまずは負担感を覚えさせないような表現の工夫というところだと思う。</p> <p>他に意見はあるか。</p>
B 委員	<p>既存の仕組みを生かした CS というところで、学校運営連絡協議会、セーフコミュニティ、インターナショナルセーフスクール (ISS) などの、とあり、それぞれを手伝っているが、既存の仕組みはそんなに無いような気がしている。学校運営連絡協議会は、各学校から出席するよう依頼され、そこで学校の話聞くだけで終わってしまう。ISS では私たちはあいさつ運動しかしていない。</p> <p>仕組みというものが見られないような気がしているが、ほかのところではどのような仕組みになっているのか。既存の仕組みというのが、少し理解できない。3つを1つにまとめるということなのか。</p>
教育施策推進 担当課長	<p>1つは、学校運営連絡協議会と ISS の地域安全対策協議会が仕組みとしてあるので、そこを整理したいというところ。</p> <p>あとは、今まで学校と地域で育んできた関係を生かした形で今後 CS にしたいという思いで書かせていただいた。</p>
委員長	他に今の B 委員の意見に関連して、意見はあるか。
C 委員	先日「地域とともにある学校づくり推進フォーラム」の配信を見た。13～14

	<p>名の方が活動についての報告や問題点を説明していた。その中で印象に残ったのは、石巻市の元校長先生が地域運営学校として「地域とともにある学校」づくりという事で、目標・ビジョンを共有していきましょうと呼びかけていた。</p> <p>地域の方にも未来の日本を形作る子どもたちに対して、自分たちができることを学校を通して協力するという、当事者意識を持ってもらうという話を話していた。校長先生のコーディネート能力が重要であって、新しい学校を作る集いという会を作ってその中で3つのプロジェクトを行った。学習支援プロジェクト、防災安全プロジェクト、読書支援プロジェクトという具体的なものを掲げ、それについて協力できる方が手を挙げて参加しているのが、地域に自然に受け入れられ笑顔で積極的に活動しているのが印象に残った。</p> <p>豊島区として具体的に現場で課題になっていること、地域で課題になっていることを出し合い、共通する項目を選びながらそれに対して人材を募っていく形が良い。</p>
委員長	<p>教育ビジョンを地域と学校が共有していくことが大事で、そこから生まれたプロジェクトの実際の事例について紹介いただいたが、それに関連して意見はあるか。</p>
B 委員	<p>私がCSに入って考えたのは、育成委員会でいろいろな事業をしている。そこに子どもたち、学校と関わりながら地域と関わってきた。私の立場ではそういうものを、煮詰める、広くすると考えている。</p> <p>学校運営協議会・セーフコミュニティ・ISS等の既存の仕組みに育成委員会は入らないので、どういう風に関わっていくか。1番地域で関わっているのは、育成委員であるという自負がある。池袋本町小では、藍染やグリーンボランティアなど色々行っている。土曜日のサッカーも外部の方がやっている。そういう方の代表を集めて、学校が主導してどうやっていくかということが示されれば、池袋本町小に関わっている外部の指導者たちに集ってもらい、子どもたちとどういうことをやっていくのがいいかを考えていくのが分かりやすい。</p>
委員長	<p>事務局はどうか。</p> <p>既存の組織というところで、ISS や学校運営連絡協議会もあるが、育成委員会等の学校ごとの様々な学校支援ボランティア組織を有機的にネットワーク化して、CSの学校運営協議会として組織化するという提案だったと思う。</p>

教育施策推進 担当課長	<p>地域と学校で様々な活動が行われているのは当然承知している。</p> <p>2 でいう既存の仕組みを生かした CS というのは、学校運営協議会という会議体としてどういう形でやっていくのか、また委員構成等も次回以降皆様に議論いただきたい。</p> <p>4 の地域学校協働活動というのが、B 委員がおっしゃられた所だと思う。地域と学校で様々な活動をここでやっていく。</p> <p>前回 I 委員より実働部隊が必要との話があったので、学校運営協議会と実働部隊を分けて考えることも必要だと考えている。</p>
委員長	<p>他に意見はあるか。</p>
D 委員	<p>地域に助けていただいている状況。3 のビジョンの共有がスタートになると思っている。</p> <p>学校と地域から課題を提起し、こうありたい、こういう子どもたちを育てたいというのをまず共有して、学校では何が出来るか、学校でできないところを地域にどう支援していただくかを話し合っ、進めていく必要がある。</p> <p>豊島区は今まで地域学校支援本部のような学校と地域をつなぐコーディネーターの仕組みがなかったので、この仕組みを CS の中に入れていきたいと思って、池袋本町小ではコーディネーターをお願いしている。実働部隊を完全には作れていないがパイプ役となる人が動いている。B 委員がおっしゃるように、藍染・草花ボランティアなど、たくさんの方が子供たちの学びをサポートする体制が整い、「池本学びのサポーター」制度を作ることができた。</p> <p>PTA の役割がどこにも書いていないが、読み聞かせや交通の見回り等をしてくださっており、PTA の力がとても大きいので、2 番のところでもしっかり定義して、最終的に 1 番の社会総がかりは、広がってしまうと思うので、少し幅を狭めて地域ならではの池本小のコミュニティを作りたいと思っている。</p>
委員長	<p>PTA は既存の仕組みで重要な役割を果たす。豊島区として共通なものもあるが、学校の特性・特色を生かした既存の仕組みを、学校ごとに洗い出す作業が必要になると思う。</p> <p>それから D 委員から指摘のあったコーディネーターの役割がとても重要になってくると思うが、池袋本町小に配置されているコーディネーターは有給か？それともボランティアか？</p>
D 委員	<p>学校運営協議会から 2 名、PTA の副会長 1 名の 3 名を指名している。今のところは無給でボランティアでやっていただいている。</p>

E 委員	<p>5 番目の将来の地域の担い手を育むというところで、低学年では地域等による学校支援活動の割合が高く、学年が高くなるにつれて今度は地域貢献活動ということで、支援から貢献に代わっている。</p> <p>高学年になるということは、ボランティア活動。やはり私たちは学校を守るために登下校時にパトロールをしている。そういった所で皆さんの地域愛、子どもたちを守ろうという活動を自分たちが大きくなった時に同じように活動していただくという事。</p> <p>学校支援活動の割合が高く、学年が高くなるにつれ地域貢献活動の割合を高くしていき、という表現が分かりづらい。学年が高くなるにつれではなく、高学年になると地域貢献活動の割合を高くしていきと、表現を変えた方が分かりやすい。</p> <p>仕組みというところで、私たちが子どもたちを守るための活動内容を明るみにして、仕組みのところにうまく表現するとよいと思った。</p>
教育施策推進 担当課長	<p>5 の将来の地域の担い手を育むというところについて、分かりづらい所は修正していきたいと思っている。</p> <p>年齢が小さいうちは、支援される側。中学校になっていくと支援する側、地域に貢献する側という形で変わっていくという事をとうまく表現していきたいと考えている。</p> <p>既存の仕組みのところに3つ例示しているが、その他地域で様々な活動をされている方がいるので、なるべく既存の仕組みを生かしたままこのCSにつなげていけるよう考えているので、そちらも表現を変えたいと思う。</p>
委員長	<p>他に意見はあるか。</p>
F 委員	<p>社会総がかりで子どもたちを育成というイメージは分かるが、豊島区の地域にあったCSということで、小学校と中学校を分けて考えたいと思っている。</p> <p>小学校は、保護者も第一子が入学では、子育てで分からないことも出てくると思う。1~6年生の色々な子どもの面倒を見るという方がイメージ的に強いと思う。</p> <p>それに引き換え中学校は、それと同じようにやったらおそらくダメ。自主性を持った取り組みをしなくてはいけないので、中学校の教育ビジョンを尊重したうえで、地域は手伝うくらいであまり変えない方がいい。共有ということで、教育ビジョンについて論争するのはいけない。地域は多少の意見を言うくらいにして、全面的に学校の教育ビジョンを地域に共有して教育していく方法を取った方がいいと思う。</p> <p>中学校にもPTAの組織があり、そこでいろいろなことをやっているの、あ</p>

委員長	<p>えて CS で行事を入れていくのは難しいと思う。中学校については、一歩引いたような形で支援・調整を CS が担う形にする。学校と保護者の間に入り、手を結んでやっていくイメージでやっていくのが良い。小学校は全部まとめて面倒をみるという感じで捉えるのがいいと思っている。</p> <p>小学校と中学校を分けて、学校への関わり方・スタンスを工夫していく必要性という意見。</p> <p>学校の示したものを共有する程度というスタンスが理想的ではないか。学校運営協議会ができたことで、行事増えるのではなく既存の行事を共有する回路が増えたという捉え方をしていく必要があるとの意見だった。</p> <p>他に意見・質問はあるか。</p>
G 委員	<p>前回は町探検で小学校は地域に何があるかというのを学校から出て町を調べるということやってきたという話や、中学校は防災関係の方へ力を入れて担い手になるためにということをして伺っている。</p> <p>CS のためにつかう授業数、取り組むために学校は時間数をどれくらいとれるのかとか、児童全体で行うのか。朋有小と池袋本町小の ISS の活動を見ているが、安全・安心の意味では同じ取り組みをしているが、内容は全然違う。中身はそれぞれ学校によって違うと感じている。</p> <p>池袋本町地域に自分も住んでいるが、育成委員会のお祭りなど活発な地域だと思う。地域にいろいろなことをしてもらっているイメージがあるので、そこを上手に CS へ取り込んで、あまり負担感のないように。そこが心配。安全・安心で地域に出るといっても小学生全員が順番に近くの老人ホームに歌を歌いに行くのは難しい。応援がないと安全・安心に子どもたちを外に出すのは難しい。どの程度の取り組みのイメージなのか具体的に分からず、学校の負担にならないといいと思っている。</p>
委員長	<p>この点に関して事務局ではどう考えているか。</p>
教育施策推進 担当課長	<p>負担にならないような形でやるというのは、アンケートでも意見を頂き、考えないといけないと思っている。</p> <p>すでに地域と学校で様々な活動をしている中に、さらに大きな新しいことやってもらうつもりはない。地域と学校で一緒に考える・行動する CS という場があって、そこには一定の PDCA サイクルが回るように仕組みを作っていく、その中で具体的に活動することがあれば、それぞれの役割で出来る範囲でやっていくことが必要になってくると思う。</p> <p>CS をやるから新しいことをやるのではなく、既存の仕組みと新しい仕組みを</p>

委員長	<p>活用して、新しい地域と学校の在り方を模索するのがこのCSではないかと考えている。CSを導入することで新しい仕組みが増える、負担になるということがないような形でガイドラインを作っていきたいと思っている。</p> <p>新しい事業をやるとなると、関わる方の負担感は最初に問題点として挙がる。それをなるべく払拭する形で事業案を示す必要がある。</p> <p>他に意見や質問はあるか。</p>
B 委員	<p>「地域とともにある学校づくり推進フォーラム」をすべて見たが、どこのCSの取り組みも地域にあった特色のある活動を行っていることが多かった。特に小さい地域では町全体で行っているところがあった。</p> <p>前にも話したが、以前は育成委員会で運動会があって、幼児からお年寄りまで地域が1つのイベントをやっていた。残念ながら私たちの地域ではできなくなってしまった。それに代わって豊島区で唯一あるプレイパークが、煮炊きができるので芋煮会を始めた。町会の方や青年会が率先して参加している。一番来ないのは子どもたちで、中でも中学生が特に来ない。体育指導員がゲームなどを考えてやってくれる。そこで一番欲しいのは、子どもたち。全員とは言わないが、各学年に1人程度先生が参加すると子どもたちも先生と遊べるようになって、盛り上がると思う。今年も出来るか分からないが、ぜひ先生たちにも参加していただきたい。池袋本町小でいろいろやっているが、全体で集まれるのはそういう形がいいと思っている。</p> <p>あと子どもスキップで委員長をしているが、ダンスや囲碁・将棋など教えている人がたくさんいるので、個々ではなく全面的にできる何かがあるといいと思っている。</p>
委員長	<p>地域にあった活動をしていくことの重要性という事で、地域に根付いていることや特色のある活動に子どもがなかなか参加しないという問題があるとのこと。</p>
D 委員	<p>前回の検討会をうけ、池袋本町小ではコミュニティカレンダーを作成した。学校は今、働き方改革と地域貢献と両方あり悩ましいところではある。例えば土曜授業の午後に芋煮会を開いていただければ、先生を送り出して子どもたちと一緒に活動することができると思う。私たちも学校から地域に行くので、地域も双方向が大事。</p> <p>あと1つF委員がおっしゃるように小学校は親が若い。保護者が地域との関わりを持ってない状況が実際にある。CSで保護者が地域に積極的に関わられるようなコアにしていきたいと思っている。</p>



委員長	<p>そろそろ定刻の時間になるが、他に意見はあるか。</p>
H 委員	<p>F 委員の話に同感で、小学校はよい子どもを育てる所で、中学校はよい大人を育てようとしている。子どもという言葉で小中をくくらない方が良い。例えば、子どもを育てる主体が学校なのだとなれば、地域は支援で入るのが小学校は望ましい。地域から学校への支援が大きくあっていいと思う。</p> <p>しかし中学校はよい大人を育てようとしているので、学校へきての支援は、教員たちは学年・学校で子どもを育てている意識が高い。小学校は担任の先生が中心になって授業をやるが、中学校は教科によって違うのでグループで育てる意識が高い。大人を育てるのであれば、中学生は地域に参画・参入させるべきだと思う。それができていないから、大人になったときに子どもたちは地域に戻る発想がない。CS で、中学校でよい大人を育てようとするのであれば、地域に行事に子どもを参画させる。学校支援をしてもらうより、地域で子どもを入れて企画から行事に参画させる。教員が出向いて音頭をとっているうちは、意識の高い教員がいなくなったらまた子どもは地域に行かなくなる。教育課程の外で、子どもたちを地域が完全に受け入れる体制のところに送り出す意識でないと連携できないと思っている。防災はまさにそうで、教員の意識が高く、こうやるぞと音頭取っていると、その教員がいなくなると沈んでしまう地域が多い。根付いているのは、生徒と消防団が 1 対 1 でくっついている所。</p> <p>小中を一緒にくくるのではなく、学校に支援していく小学校の CS、中学校には明確にそこで育つ子どもたちが恩送りのつもりで地域に戻っていくために、地域が受け皿を作る。学校は、教育課程の外でも受け入れる準備ができてから、地域がどんどん入ってこなくてはいけない。来年度は土曜日に防災訓練を行うことになった。</p> <p>そうやって小中それぞれの立場をきちんと明確にしていっているのではないかと思う。小学生は守られる立場、中学生は一人の若者として、大人として地域を守る側に回らせる、その意識づけがあっている。もし子ども会や育成の行事でも中学生の手がないと足りないというスタンスでいただけると、送り込める。中学校には子どもを地域に預ける、地域は受け入れるという体制づくり、それが地域に開かれた学校と学校に開かれた地域づくりであり、そういう住み分けをしている。</p>
委員長	<p>中学校の CS を構築していく上では、教員に頼らず地域の教育力というところの中で、中学生を区民として育成していくような体制を話し合い作っていくという提案だった。</p> <p>教育課程以外のかつての学校外教育・子どもの社会教育というところが今か</p>

A 委員	<p>なり弱くなっており、なんでも学校に頼らざるを得ない状況になっているので、そういった所を見直すのも CS を導入する一つの意義だと思う。</p> <p>他に意見や質問はあるか。</p> <p>意見が焦点化され、新たな発想・考え方が浮かんできている。</p> <p>この議論をしながら目指すべきは、みんなにとって win-win の形、学校にとっても育成委員や地域の方にとっても、やってよかったというものになっていかないと少なくとも持続可能でない。今後考えていくときに、学校の腰が引けてしまうような CS ではなく、さらに教育内容、子どもの育成、地域に育っていく大人の育成が寄与するものを考えていく中に、豊島区の CS らしさが出てくると感じた。</p> <p>そのなかで ISS と CS の関係の中で、過剰な負担を強いたり、学校のプラットフォーム化で機能不全に陥る危険があるという指摘があった。そんな風にしようと思っている人はいないと思うが、CS で学校にこれも出来ないかあれも出来ないかと、何でもかんでも持ってきてしまうと、学校が焦点化できなかったり、やりづらかったり、負担ばかりが感じられるというのはもったいない。</p> <p>議論を進めながら、いかに負担を強いるものではなく、既存の仕組みで今までやってきているものを生かしていくというのを上手に表現してほしいと感じている。</p> <p>ぜひお願いしたいと思っていることが 2 点ある。資料 6 法定 CS の拡大についての目安、ゴールは全校化なのか、もう少し校数を増やしていくのか、今日の議論では分からない。すでに取り組んでいるモデル校の成果や課題は今度検討していくための材料になる。今後の予定の中で成果や現状の取り組みの状況について教えてもらえたら、検討委員会の議論が深まっていく。</p>
委員長	<p>情報交換会のような既存の CS の取り組みについて共有する会があればよいと思う。</p> <p>A 委員から指摘があったように、新しい CS が導入されるにあたって、負担感ではなく参加することで楽しい・やりがい等のやってよかったという実感を持てるような楽しそうな仕組みを作るかというのも、豊島区の CS の仕組み作りに反映されていけばよい。</p>
教育施策推進 担当課長	<p>法定 CS の拡大のゴールについて、これから教育委員会の中でもどうしていくのか考えないといけないと思っている。検討委員会のなかで明確にこうするとは申し上げられないと思うが、教育委員会のスタンスは事務局で考えたい。</p>

委員長	<p>またモデル校の成果と課題について前回もお示ししているが、今後、各校長と相談してどういった形で実施しているか皆様に共有したい。</p> <p>他に意見はあるか。</p>
I 委員	<p>学校によって地域との取り組みの仕方と PTA の関わり方が違うと思っている。</p> <p>先程も話があったが、小中学校の児童・生徒の考え方も違ってくるというのがあるので、そこを統一化するのは非常に難しい作業だと思う。それでも平均的にはこういう感じという指針を出しながら議論していくのが良いと思う。</p> <p>小学校も中学校も一括りでこうしていきましょうと言ったところで、小学校はイベントに積極的に出やすいが、中学生は友達と遊ぶ方が楽しいというのが正直あるので、お互い立場が違うというのを考えながら議論していくのが大事。それに伴い重要になってくるのは、コンセプトも大事だが、各学校どういう人選を選ぶかが非常に大事。積極的にやってくれる方を選ぶべき。意見を出すが動かない人より、積極的に動く人を選ぶという、こういう人選がCSの肝だと思う。</p>
委員長	<p>次回以降、学校運営協議会の人選や組織について予算関係等の具体的なことについて話し合うことになる。その時にまた意見を頂ければと思う。</p>
教育施策推進 担当課長	<p>今後ガイドラインを作るときは、あまり細かく記載できないと思っている。豊島区全体で調べて、こういう考えでやっていくというものを示すものを作っていきたいと思っている。</p> <p>さらにそれが各学校の学校運営協議会のなかで、学校がある地域の特色を生かした運営がなされていく形にしていきたい。</p>
委員長	<p>今日話し合った2つの視点について皆様から頂いた議論を踏まえ、具現化した内容を話し合うという段に入っていく。</p> <p>引き続きよろしく願いいたします。</p>

会 議 の 結 果	事務局からの説明について各委員からご意見を頂いた。
提出された資料等	(資料1) 第2回検討委員会 議事録 (資料2-1) 豊島区コミュニティ・スクール事業検討委員アンケート結果 (概要) (資料2-2) 豊島区コミュニティ・スクール事業検討委員アンケート結果 (マトリックス表) (資料3) CS 論点整理 (資料4) 豊島区 CS 像と期待される効果について (資料5) 活動費の使用用途例 (資料6) 今後の検討委員会及びコミュニティ・スクール事業について
そ の 他	